

引佐の棚田米 甘く香りよし

文化芸大生育てて収穫



「久留女木 棚田の恵」を販売する引佐耕作隊のメンバー＝浜松市中央区の静岡文化芸術大で

静岡文化芸術大（浜松市中央区中央2）の学生団体「引佐耕作隊」が19～30日、浜名区引佐町の久留女木の棚田で育てた米「久留女木 棚田の恵」（品種・にこまる）を学内の生協で販売する。一般も購入でき（須江政仁）

19日から学内生協で販売

久留女木の棚田は景観の美しさから「日本の棚田百選」に選ばれる。一方、約6割が休耕地。引佐耕作隊は景観を保全し魅力を伝えようと、2016年から米作りに取り組んでいる。今シーズンは昨年4月から、メンバー13人が田起こしから稲刈りまでの全工程を担い、昨秋に約160kgを収穫した。

メンバーは週に1度、レンタカーを借りるなどして約1時間をかけて棚田に通った。棚田にうまく水がたまらないなど多くの苦労を乗り越え、代表で文化政策学部3年の原理純さん（21）は「前回よりも作業の回数を増やし、細かい管理ができた。地域の農家の方々に助言をもらいながら、前回よりも多く収穫できた」と手応えを語った。米は1袋300gで50

0円。学内に加え、専用フォームQRコードでも販売する。パッケージデザインは5種類あり、水を蓄えることで天然のダムになることや、多様な生きものすみかになることなど、棚田の多様な役割をそれぞれ紹介している。

13日に学内でメンバーによる試食会があり「香りが良い」「甘い」という声が上がった。ともに初めて活動に参加した同2年の種市瑛太さん（20）は「作業は感覚的な部分が多く、先輩の作業を見ている時間が長かった。次はもっと主体的にやりたい」、同1年の石川安梨さん（19）は「狭い棚田では基本的に手作業なので、覚悟していたが大変だった。また、春の田起こしから頑張りたい」と意気込